

論文タイトル： Summary of National Nutrition Survey 1980-1984 by Prefecture

論文著者： Yamaguchi M, 他

論文掲載誌： Japanese Journal of Clinical Oncology. 20: 113-120.

---

この研究は、昭和 55 年（1980 年）から平成 59 年（1984 年）の「国民栄養調査」の結果を地域別に再集計した研究です。

47 都道府県ごとに世帯構成や世帯員の職業の分布、栄養素摂取量の平均値を算出しました。さらに、世帯員の栄養素摂取量と、世帯員の性・年齢・身体活動レベルを考慮して算出した栄養素摂取量推奨値との比を算出し、都道府県ごとに各栄養素の摂取量・摂取量推奨値比の平均値を比較しました。

人口が多い都道府県ほど、世帯総数も多い傾向にあり、世帯数が最も多い県は東京都（2,950 世帯）で、最も少なかった県は鳥取県（122 世帯）でした。また、ほぼ全ての都道府県で世帯員が全て農業に従事している世帯の割合が低かったのに対し、6 つの県（秋田・福島・石川・長野・滋賀・宮崎）では、世帯員のいずれかが農業に従事している世帯が、全体の 20%以上を占めていました。さらに、大都市圏・太平洋側の都道府県では、職業として被雇用者が最も多い割合を占めました。

都道府県別に総エネルギー摂取量、栄養素摂取量を算出した結果、総エネルギー摂取量に違いは認められませんでした。沖縄県でのみ、脂質・ビタミン B を除く全ての栄養が、他県と比較して少ない傾向にありました。各栄養素の摂取量・摂取量推奨値比については、多くの県で、カルシウムを除く全ての栄養素が、実際の摂取量が推奨値を上回っている（摂取量・摂取量推奨値比が 1 以上）ことが認められました。

この研究結果からは、1980 年台前半の日本において、都道府県ごとに栄養素摂取量に違いはほとんどないことが示されました。

※詳細は、文献をご確認ください。

—国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所—